広報伊方町

発行所
愛媛県西宇和郡
伊方町
編集
町長公室
印刷所
尾上印刷所
八幡浜市天神通
電話 ㊀0691番

町づくり人づくりに19億円

49年度 町の家計簿報告

健全財政をあゆむ

昭和四十九年度町の台所、一般会計、国保会計、水道会計、学校給食会計、公共用地先行取得事業会計、墓地会計、歯科診療所会計、港湾整備会計の決算ができあがりました。

そこで四十九年度中に町民のしあわせを願い、海に山に街により豊かで住みよい町づくりのためにどのようにお金が入ったかまた使われたか、町の家計簿を町民のみなさんに知っていただくため、ここにそのあらましを紹介しましょう。

四十九年度の決算規模は一般会計で十五億円、その他七つの特別会計を合算しますと十九億円となりました。

なお、一般会計は九年連続黒字となったほか、全会計の合計でも昭和四十三年から七年連続の黒字決算を見ました。

一般会計については、下欄であらましを紹介していますが、昭三年に開始して七年目を迎えましたが、四十九年度は一千円の黒字和四十一年財政再建計画を終えて決算となりました。

公共用地先行取得事業会計は、四万円の黒字決算となりました。

墓地会計は、昭和四十七年からはじまり三年目を迎えましたが三年連続の赤字決算で累積赤字額は二百七十五万円です。

歯科診療所会計は、昭和四十九年新たに設けられ四千円の黒字決算となりました。

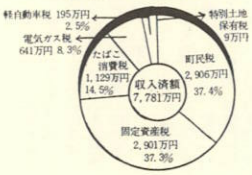
港湾整備会計も四十九年に新しく設けられたもので、入ったお金九百三十万円、使ったお金も九百三十万円で差引きゼロ決算となっています。

学校給食会計は、昭和四十七年度黒字となりました。（下欄のグラフのとおり）

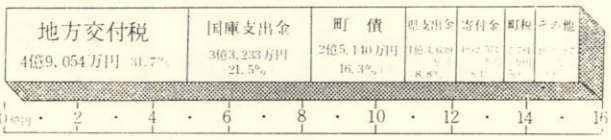
水道会計は、六百一万円の赤字決算となりました。

国保会計は、入ったお金が二億三千五百三十六万円、使ったお金が二億二千五百六万円で差引き一千三十万円の黒字決算となっていますが、入ったお金の中には前年度からの繰越金二千八百二十六万円が含まれ、使ったお金には積立金が二千八百三十四万円あり、差引き二千三十八万円が実質単年度黒字となりました。

町税の内訳



入たお金の構成　15億4,628万円



町民1人あたりの税金

（人口はS50・3・31日現在で計算）

総額	固定資産税	町民税	たばこ消費税	電気ガス税	軽自動車税
8,630円	3,218円	3,223円	1,252円	711円	216円

一般会計決算

実質黒字額　一千十八万円

一般会計について昭和四十九年度中に町の台所へ入ったお金、使ったお金のあらましをグラフやカットをみながら説明してみましょう。

町の台所へ入ったお金は、総額十五億四千六百二十八万円、使ったお金が十五億二千七百一万円、差引き一千九百二十七万円の黒字となっていますが、年度内に事業が終わらず翌年度に繰越したお金が一千百七十九万円あり、これに関連する未収入特定財源が二百七十万円ありますので、その差額九百九万円は翌年度に繰越すべきですから、四十九年度の実質収支は一千十八万円（前年度二千二百万円）の黒字となります。

一般会計で九年連続、全会計の合計においても七年連続の黒字決算を見ることになりましたことは町民のみなさんの町政に対する深いご理解とご協力のたまものです。

入たお金（歳入）

町税は五%

入ったお金の順位は
地方交付税（三十一・七%）
国庫支出金（二十一・五%）
町債（十六・三%）
県支出金（八・八%）
寄付金（八・一%）
町税（五・〇%）となっています。

国、県への依存財源である自動車重量譲与税、自動車取得税交付金、地方交付税、国庫支出金、県支出金、地方交付税、国庫支出金、県支出金、地方債を合算しますと七十九・五%となり、四十八年度の六十八・九%とくらべ十・六%依存率は高くなっています。

自主財源の主軸をなす町税についてみてみますと

四十五年度六・〇%
四十六年度四・七%
四十七年度三・八%
四十八年度五・〇%
四十九年度五・〇%

と十%をはるかに下まわるまったくの一割自治の実態です。

こうしたなかで、財政力の弱さを克服し、町民の暮らしと町づくりのため積極的に建設事業を推進したあらわれです。

使ったお金（歳出）

建設事業に八億五千万円

使ったお金では
土木費（二十六・八%）
教育費（十七・八%）
民生費（十四・六%）
農林水産業費（十三・〇%）

総務費（十・七%）の順位になっています。

土木費、教育費、民生費、農林水産業費と投資的経費を多く含む科目が上位をしめています。

つぎにこの使ったお金を性質別に分析してみますと、建設事業費が五十五・九%（前年五十二・七%）をしめ、約八億五千万円にもなります。ついで人件費の十九・六%、物件費の七・四%とつづいています。

最後に使ったお金十五億一千七百一万円は本町の一世帯当りで六十一万一千五百三十八円、一人当りでは十六万九千三百六十七円使った勘定になります。

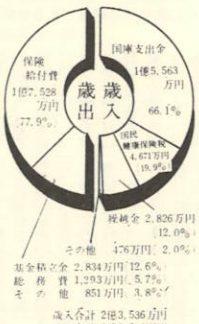
町民のみなさんが納められた町税は七千七百八十一万円ですが、この金額は町民一人当りどのくらいの額になるか計算してみました

一人当り八千六百三十円（一世帯当りでは三万一千百六十一円）納めたことになります。

また町税の細部にわたる一人当りの金額を掲載していますので参考にしてください。

なお、二面で四十九年度中にどのような施設ができたか／その概略を紹介しています。

国民健康保険会計



使ったお金

15億2,701万円　1世帯当り 611,538円

◎は町民1人当りの額
（人口はS50・3・31日現在で計算）

歳出総額	議会費	総務費	民生費
◎ 169,361円	2,414万円（1.6%）◎ 2,677円	1億6,308万円（10.7%）◎ 18,088円	2億2,264万円（14.6%）◎ 24,694円

衛生費	労働費	農林水産業費	商工費
5,095万円（3.3%）◎ 5,651円	1,017万円（0.7%）◎ 1,128円	1億9,922万円（13.0%）◎ 22,096円	234万円（0.2%）◎ 260円

土木費	消防費	教育費	災害復旧費
4億0,969万円（26.8%）◎ 45,440円	2,926万円（1.9%）◎ 3,245円	2億7,135万円（17.8%）◎ 30,096円	3,285万円（2.1%）◎ 3,644円

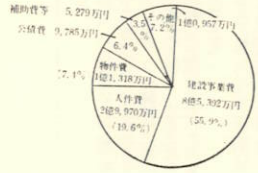
公債費
9,785万円（6.4%）◎ 10,853円

諸支出金
1,347万円（0.9%）◎ 1,494円

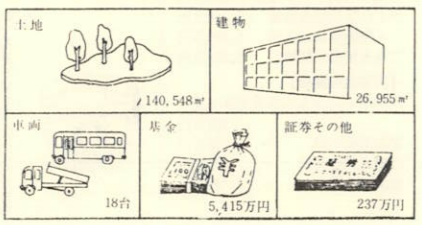
各会計の決算をみる

	入ったお金	使ったお金	差引
一般会計	15億4,628万円	15億3,610万円	1,018万円
国保会計	2億3,536万円	2億2,506万円	1,030万円
水道会計	3,129万円	3,730万円	△ 601万円
学校給食会計	2,819万円	2,819万円	0万円
その他の会計	5,482万円	5,752万円	△ 270万円
全合計	18億9,594万円	18億8,417万円	1,177万円

性質別にみた使ったお金



町有財産の状況



調和のとれた開発めざす

〝49年度〟町づくりをみる

きょう・きのう そしてあすへ！

昭和四十九年度の決算と同時に主要施策の説明書ができあがりました。

町民のみなさんにわが伊方町がどのような施策を展開してきたか、また、こんごどのような方向で伊方町の新しい豊かさをもとめて行くのか、各部門別に紹介します。

こんごの町づくりは、きょうをながめ、きのうを反省し、そしてあすへむかって、住民の英知を結集し長期的な展望のもとに調和のとれた開発をめざすことが大切です。

四十九年度をふりかえり反省し、さらに将来へのジャンプの足がためにしたいものです。

住んでいる〝ふるさと〟は私たちのものです。私たちの手で〝愛するふるさと〟をつくりましょう。

福祉の町

いつも笑顔の生活

◎民生・衛生部門

（この部門は民生費、衛生費、労働費の三つです）

町民のくらしが健康で調和のとれた「住みよい町」となるためには、社会福祉の拡充と健康管理体制の強化をはかる必要があります。

そこで、児童福祉行政については、四十九年度新たに川永田保育所を新設しました。また児童手当の支給対象範囲につきましても従来の十歳から義務教育修了前までに拡大しました。

老人福祉行政についても、敬老会補助金の大巾増額、老人集会所にあんま機の設置、老人の健康保持を進めるためはり、きゅう、の施術費の助成や老人の世話役であるホームヘルパーを職退手当組合へ加入させるなど、その待遇改善等に積極的に取り組んでいます。

つぎに町民のくらしが健康であるためには、健康管理体制の強化をはかる必要があります。

そこで四十九年度は待望の歯科診療所の新設、母子栄養食品の支給日数の延長、助産婦の待遇改善引きつづき実施している農薬危害実態調査等の健康管理の拡充強化をはかっています。

また、ハエ、カ退治の薬剤の無料配付、野犬対策としての不用犬買上げ単価の大巾増額、町内一円の簡易下水道の整備、水質汚染調査などこれら一連の環境保全対策においても積極的に取り組んでいます。

こうしたことは、町民のみなさんが、健康であり、どの家庭からも笑顔の生活ができる町づくりをめざしているものです。

きようも元気はつらつみんな仲よし

楽しく住みよい町

消防力の強化はかる

◎総務企画部門

（総務企画部門は議会費、総務費、消防費、公債費、諸支出金の五款からなっています）

住民の生命と財産の安全を守るため、消防力の拡充強化はもとより、消防に高度な知識と技術が要請されるようになりました。

そこで四十九年度は消防自動車小型動力ポンプの購入をはじめ湊浦、奥、二見地区のポンプ格納庫兼詰所の建設、川永田地区に送水管の布設等の整備充実をはかるとともに消防団員を競技会、講習会、研修会に積極的に参加させ、その資質向上につとめました。

また、コミュニティづくりの根拠地として各部落の集会所を整備してきましたが、四十九年度は伊方越地区に集会所を整備いたしました。

本町発足以来の大事業である原子力発電所は、昭和四十九年十月三十一日原子炉格納容器耐圧試験に成功するなど順調にその工事が進められています。

いっぽう町職員の原子力に対する知識の高揚につとめるため、地方自治体職員対象原子力講座などに三人を参加させるなど資質の向上につとめました。

楽しく働ける町

伸びる農道網

◎農林水産部門

（この農林水産部門に属するものは農林水産業費と商工費の二つです）

町民経済の安全と伸展により「住みつく町」となるためには、「生産資本の充実」をはかり、時代に即応した農業、漁業の構造改善を強力に推進する諸施策が必要であります。

そこで、農業所得の安定と農業構造改善策として、継続事業である仁田之浜農道、豊之浦農道をはじめ、ヒエ田農道の新設。

このほか仁田之浜畑地帯総合整備事業、灌漑園地農道の整備に着手するほか、古屋敷畑地帯総合整備事業も調査測量を実施しました。

舗装関係では伊方越農道、有寿来農道、大浜振興農道を中心とした生産資本の充実をはかっていまのは農林水産業費と商工費の二つです）

町民経済の安全と伸展により「住みつく町」となるためには、「生産資本の充実」をはかり、時代に即応した農業、漁業の構造改善を強力に推進する諸施策が必要であります。

そこで、農業所得の安定と農業構造改善策として、継続事業である仁田之浜農道、豊之浦農道をはじめ、ヒエ田農道の新設。

このほか仁田之浜畑地帯総合整備事業、灌漑園地農道の整備に着手するほか、古屋敷畑地帯総合整備事業も調査測量を実施しました。

林業振興策としましても、前年につづいて松くい虫の駆除を強力に推進してきました。

こんごとも農業、漁業の構造改善をはかり、楽しく働ける町づくりに積極的に取り組んでいく必要があります。

また、土地に関する基本となる事業として国土調査を行なっていますが、四十九年度は伊方越、亀浦地区四、六五平方キロメートルを調査測量いたしました。

いっぽう漁業振興対策としましては、前年に引きつづき並型魚礁を投入したほか、新たに水銀汚染対策資金の利子補給を開始しました。また、漁港の整備としては鳥津漁港舟揚場新設、大成漁港階段新設のほか、伊方漁港の中浦海岸保全事業を継続事業として実施しています。

林業振興策としましても、前年につづいて松くい虫の駆除を強力に推進されつつあります。

このような、かってない緊急事態にさらされている経済情勢のなかで、本町の基本構想に描いた「将来の姿」をどのように推進するか充分見極めて地域社会の生活、生産資本の基盤強化、住民福祉の向上等、地域開発を積極的に推進する必要があります。

また、最近の町勢の状況をみますと昭和三十五年頃から大巾に減少していました人口も昭和四十五年を境にして減少率は少なくなってきております。

これはまず第一に出かせぎ者のUターン現象が考えられ、その原因としては原子力発電所建設による地域的なものか、列島改造論等による全国的なものか否かはわかりませんが、本町の過疎化の傾向は鈍化していると考えます。

このように変動してきている社会情勢の中で原子力発電所誘致にともなう電源立地促進対策交付金事業を中心に「福祉の開発」の拡充強化を積極的に推進しなければ

町道を五キロメートル舗装

◎土木・建築部門

（土木費、災害復旧費の二つです）

住みよい生活環境をより充実させるため「生活資本の整備」を強力に推進する必要があります。

なかでも生活圏道路として集落を結ぶ主要道路の整備は急を要するものであります。

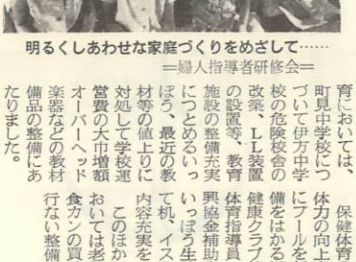
そこで亀浦臨港線、豊之浦臨港線、伊方越崎山線、亀浦中道線、国道一九七号線バイパスに通ずる伊方宮内線等の改良、また舗装では二見大松線、河内上大浜峯線、川永田有寿来線および川永田豊之浦線などを積極的に整備いたしました。

こんごは、これら生活圏道路の拡張はもちろんのこと、全線舗装の早期実現を強力に推進して行かなければなりません。

また港湾事業としましては伊方港小中浦、中之浜地区の高潮対策事業をはじめ、大浜、仁田之浜地区の局部改良事業を継続事業で実施しているほか、港湾整備事業特別会計で計画しています仁田之浜ふ頭用地造成事業にも着手しました。

楽しく学べる町

豊かな人間性を育てよう！



明るくしあわせな家庭づくりをめざして……
＝婦人指導者研修会＝

◎教育文化部門

（教育文化部門は教育費のみです）

教育と文化の香り高い「住みたくなる町」であるためには、社会変化に対応した積極的な「教育資本の整備充実」を図る必要があります。

そこで学校教育においては、町見中学校につづいて伊方中学校の危険校舎の改築、LL装置の設置等、教育施設の整備充実につとめるいっぽう、最近の教材等の値上りに対処して学校運営費の大巾増額、オーバーヘッド楽器などの教材備品の整備にあたりました。

社会教育については、四十九年度に新らしく加周地区を拠点とした二見公民館の新築を行ないました。

こんご中央公民館とともに各種の学級、催し物、料理、講座等一連の社会教育活動を展開することとしました。

また、読書活動を活発にするため図書の大量購入、図書巡回車の設置をはかりました。

保健体育の面においては、体位体力の向上をめざして町見中学校にプールを新設するなど施設の整備をはかるほか、スポーツ少年団健康クラブ等の育成を進めるため体育指導員を八人に増員、体育振興協金補助金の大幅増額を行ないいっぽう生徒の体位向上対策として机、イスの購入を実施し、その内容充実を行ないました。

このほか、学校給食センターにおいては老朽化した給食運搬車、食カンの買替えや冷凍庫の購入を行ない整備しました。

結論

より新しい豊かさをもとめ 楽しく住める町づくりを

いっぽう原子力発電所の建設は昭和四十九年十月三十一日原子力炉格納容器耐圧問題に成功するなど順調にその工事が進められています。いまなお一部の住民に根強い反対運動があり憂慮している現状です。

しかし、この世紀の大事業である原子力発電所は、必ず成功させる信念のもとで、問題解決に当たり、全町民のみなさんのあたたかいご理解とご支援をお願いするものであります。

そうして経済の発展と福祉の調和のとれた開発政策を地道に積みあげ、新しい豊かさを追求し「住みつく町」「帰って来たくなる町」を実現させなくてはなりません。

こうした施設ができました

伊方中学校改築・歯科診療所・二見公民館・川永田保育所を建設

昭和49年度中にどのような施設ができたか紹介してみました。

こうした施設は限られた予算のなかから豊かな町づくりをめざし、創意工夫して完成したものです。

【総務関係】

九町越公園展望台建設	590万円
伊方越集会所建設	1,070万円

【民生関係】

陽だまりの部屋設備費	114万円
老人医療費給付金	2,620万円
児童手当	2,792万円
川永田保育所新設費	3,272万円
〃　用地費	1,247万円

【衛生関係】

歯科診療所新設費	3,060万円
歯科診療所医療機器類購入費	1,206万円
零歳児医療費	116万円
ゴミ処理場補修費	127万円
農薬危害防止対策費	134万円
予防接種医薬材料費	180万円
一斉消毒薬剤費	214万円
下水道整備費	416万円

【農林水産業関係】

仁田之浜畑地帯総合整備排水路改修工事	1,984万円
灌漑園地農道整備	1,500万円
大浜新興農道舗装	670万円
有寿来農道舗装	730万円
伊方越農道舗装	1,000万円
湊浦ヒエ田農道新設	119万円
仁田之浜農道新設	1,185万円
豊之浦農道新設	1,346万円
国土調査事業	2,594万円
松くい虫駆除対策	679万円
並型魚礁設置事業	102万円
中浦海岸保全施設整備	940万円

【土木関係】

伊方越亀浦線道路改良	400万円
二見大松線　〃	800万円
湊浦河内線　〃	1,410万円
伊方宮内線　〃	1,494万円
亀浦町見線　〃	5,133万円
亀浦中道線新設	288万円
亀浦臨港線　〃	600万円
豊之浦港内道路　〃	700万円
豊之浦臨港線　〃	1,500万円
伊方越崎山線　〃	1,600万円
大浜第一臨港線舗装	100万円
湊浦伊方越線　〃	186万円
二見大松線　〃	300万円
河内大浜峰線　〃	300万円
川永田豊之浦線　〃	320万円
伊方越臨港線　〃	400万円
川永田有寿来線　〃	500万円
亀浦臨港線　〃	1,000万円
大浜防波堤工事	912万円
中之浜護岸工事	1,567万円
仁田之浜物揚場築造	1,580万円
小中浦高潮対策工事	3,526万円
河内公園造成費	150万円
がけくづれ防災工事	303万円

【消防関係】

消防ポンプ自動車購入費（第5分団＝湊浦＝）	494万円
小型動力ポンプ購入費	58万円
第16分団（二見）消防ポンプ格納庫新築	332万円
第8分団（湊浦）〃	410万円
第12分団（奥）〃	499万円
川永田地区送水施設費	291万円

【教育関係】

町見中学校プール建設	2,858万円
伊方中学校校舎改築	9,640万円
〃視聴覚設備一式	1,440万円
二見公民館新築費	3,809万円

【災害復旧関係】

河内下中之浜大成線災害復旧費	104万円
豊之浦長崎線　〃	202万円
仁田之浜臨港線　〃	247万円
亀浦防波堤　〃	1,181万円

はたちの青春を祝う

希望あふれる成人式

記念植樹
成人を記念して、町の木に制定されている「黒松」を明治百年記念公園内に植樹しました。

はたちの青春を祝う〝成人式〟が一月十五日中央公民館で新成人四十一人（男子十四人・女子二十七人）が出席して盛大に行なわれました。

当日は輝やかしい成人者の将来を祝福するかのような春びよりの好天気に恵まれ、会場内は若い大人の熱気が漂っていました。

式典は多数の来賓の方々が列席し、君が代斉唱、成人者紹介、山本町長、栗田教育委員長のあいさつ、記念品贈呈（アルバム）、つづいて高月教育長、辻町議会議長山本青年団協議会長がお祝いのことばがありました。

ついで新成人者代表による誓いのことば、新成人者自己紹介、成人者の健康と活躍を祈り福田助役の音頭で万歳三唱を行ない式典の幕を閉じました。

式典のあと新成人者代表（男女各一人）、青年団員代表、老人クラブ会長、婦人会長の意見発表があり、ついで今回はじめての行事として記念植樹が行なわれ、成人者代表が町の木である「黒松」を明治百年記念公園内に植樹しました。

つづいて記念撮影、楽しい会食フォークダンスなどでなごやかな一日を過しました。

今回も参加者は全員洋服姿で出席しました。これで昭和四十五年から七年間つづけて服装の簡素化が守られたわけで関係者をよろこばせました。

◇ ◇ ◇

これから新成人のみなさんは、大人として政治に参画し、自己の責任と判断で人のため、世の中のため尽すことになるわけです。

出席者のほとんどが町内居住者で、ふるさとこうした人たちが町発展の原動力になるわけです。

ふるさと伊方町を愛し、よりよい町にするため手をとりあってがんばりましょう。

成人式で受けた新鮮な感動を胸に秘め、一公民として義務と責任を自覚しマイペースで進んでください。

羽ばたけ若人／あなたたちの前途は洋々たるものがあります。

なお、成人者代表の意見発表文と新成人者になった心境などについて掲載していますのでご一読をもう。自分に忠実であれ。

新成人に聞く

新成人に「成人になった心境」などについてインタビューし一社会人としての自覚を聞いてみました。

湊浦　佐々木 淳夫
① 成人になった心境は
② 一社会人としての自覚は
③ あなたの人生（訓）目標は

①ただぼう然としているだけですが、いままでのような事はできないと思っています。
②マイペースを続け、無意味な人生を送らないようにしよう。ただこれだけ！
③アバンチュール（冒険）を楽し

亀浦　宮内 鈴子

①他人に甘えることなく、自分自身に責任を持ってがんばりたいと思います。
②自分の行動に責任と誇りをもって、一日も早く立派な社会人になれるよう心がけたいです。
③自分に素直で、自分なりに無理のない計画で人生を送って行きたいと思います。そして人から好かれる人間でありたい。

久保　松田 文子

①特別どうて感じはしないけど、もう大人の仲間入りかと思うとうれしいようで、それでいてさみしいような気がします。
②すべての物事に対して真剣な気持ちで取りくんでいかなければと思います。
③これからの人生、無駄な時間は少しでもなくし、少しの時間も有意義に使って、自分にプラスになるよう努めたい。

須賀　丸谷 京子

①大人になったと思うとうれしいようだけど、不安やためらいでいっぱいです。それに未知の世界への好奇心。
②自覚と責任の重大さを教えさせられるようです。
③相手の立場になって何事も行動したいと思います。
「七転八起」でがんばりたい。

豊之浦　井上 久美

①成人といわれてもあまり実感がわきません。しかし、いつまでも純粋で素直な気持ちを持ちつづけたいと思います。
②何事にも成人という名にふさわしいように真剣にとりくみたい
③「七転八起」といったら少しオーバーかな！

中浦　井上 利一

①これで一人前の大人として社会で認められるのだから何でもやってみたい。
②責任ある行動をとること。それと多くの人と接し、自分をみがき、体験を通し一社会人としての自覚を深めたいです。
③常に前向きの姿勢で努力いたしたい。

成人の日。

この日は「大人になったことを自覚し、自から生き抜こうとする青年を祝いはげます日」だそうです。

急に〝大人になったことを自覚しろ〟といわれても少し抵抗を感じます。一歩一歩地に足を踏みしめながら大人になるよう努力したいと思います。

広げたい「自分の世界」

仁田之浜　水上 重光

また、現在大人になっている人たちも、口ではもう大人だ、大人だと、私たちのことをいっていますが、心の中ではどうなのでしょうか？

無理に背伸びせず、大人の自覚を養って行きたいと思います。

人間無理をすると、つまずきが生じてきます。

しかし、甘えは禁物です。

人間として生まれた以上、人間としての義務と責任は当然のことながら果たさなくてはなりません。

成人になりますと、選挙権という大切な権利を行使することができます。今年は選挙があると思われますが、自分の選んだ人に対しては、自分も責任があるという考えで、責任ある投票をして行きたいものだと思います。

さて、いままでの私は高校卒業以来、何の目標も持たずただ平々凡々と過ごしてきたようです。一家の柱にならなければならぬ自分というものを成人を期にして、自分自身に気合を入れなければと思っています。

また、いかに自分の世界が狭いかということに気づきました。

とかく自分の世界にこもりがちになり、自分で自分の視野を狭くしているところがあります。

「井の中の蛙　大海を知らず」では、自分に発展はありません。

こんごは青年団組織などの活動を通し、目を広く世間にむけ、数多くの人と接触するいっぽう、未知の世界を体験し、自分の肌でつかんだ経験の積みかさねを将来に生かして行く覚悟です。

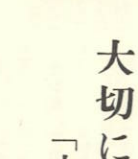
望ましい成人とは、大人とは、人間とは……自分なりに考えて、この二度とない素晴らしい青春時代を大切にし、くだらぬことになどに妥協することなく生きて行きたいと思います。

それに自分自身を大切にする一方、近隣の人たちをより大切にし、満足のできる日々をおくりたいと思います。

◇ ◇

大切にしたい「人の和」

須賀　丸谷 京子



まだまだ〝十代だ〟なんて、ついこの間までみんなが集まって話していた。

しかしいつしか年もとり二十歳となった。

十代の頃は、早く大人になりたいなんて思っていたものですが、でも今ここに、この成人を迎えるようになったら、人間勝手なものでいつまでも子どもでいたいなんて考えたりするものです。

二十歳って青春が半分以上過ぎ去った者だと思いますが、もう一度自分の生き方を振り帰って、これからの社会に役立つように実行してみたいと思います。

今日から法的にも、社会的にも一人の大人としてみられます。

社会の一員として生活していく以上、私は「和」ということを大切にしたいと思います。

この世のなかは二、三歳の子どもから七十、八十歳のおじいちゃん、おばあちゃんまでそれぞれ違ったものの考え方の人々の集まりです。このなかで自分の利益ばかりを考えたのではうまくいくはずはありません。

ちょっとした心がけが人間関係を暖かく感じさせます。

たとえば隣り近所の人たちとのお互いのあいさつとか、また危ない場所で遊んでいる子どもを見つけたら注意してあげるとか、バスのなかで老人が立っていたらゆずってあげるとか、あたり前のことが案外と忘れがちです。そうして相手の立場を充分理解できるような、そんな大人になりたいと思います。

不安やためらい、未知の世界への好奇心。すっしりと重い荷物を背負わせられたような責任感が私に成人としての自覚と責任の重大さを教えてくれるようです。

大人になったことを自覚して何事にも協力し、私自身がこの社会の中で生きるために七転八起でがんばり、両親、先輩たちの教えをよく聞き立派な大人になるためにこれからもなお一層精進しなければならないと思います。

「はい」という素直な心。

「ありがとう」という感謝の心

「すみません」という反省の心

この三つの「心」を大切にし一人の人間として、また一人の女性として明日にむかって楽しく、明るく生きたいと思います。

◇ ◇

成人になったら国民年金に

ことし成人になられたみなさん！　国民年金に加入の手続きはすみましたか。

満20歳以上の人で、会社や官庁などに勤めていない人は、必ず加入しなければなりません。

まだ加入していないかたは、いますぐ役場国民年金係で加入の手続きをしましょう。

一般会計 総額十六億七千万円に

（第八十三回定例町議会）

第八十三回定例町議会は十二月二十四日から二十六日までの会期三日間で開催され、昭和五十年度一般会計補正予算など二十議案が上程され、慎重審議の結果、全議案原案どおり可決されました。

議決された一般会計補正予算は一億六千八百七十二万円で、いままでの予算額を合算しますと予算額は十六億六千六百十三万円になりました。

そこで今回補正された主な予算内容を紹介します。

亀浦に集会所

総務費
◎亀浦集会所新築費一千九十万円

民生費
◎重度心身障害者医療扶助百三十一万円プラスされ四百五十六万円になりました。
◎老人医療費三百五十二万円プラスされ三千十五万円の巨額のお金になりました。
◎児童手当が二百万円加算され三千六百三万円になりました。

衛生費
◎伊方越下水排水路整備事業　二百四十五万円
◎加周　〃　六十三万円

農林水産業費
◎大浜農道舗装四百四十万円加算され六百四十万円になり延長一千百九十四メートル舗装します
◎町見中央農道新設九百三十五万円

土木費
◎伊方越崎山線舗装　二百万円
◎豊之浦長浜線舗装　二百万円
◎伊方越亀浦線舗装　二百万円
◎河内上大浜峯線舗装　三百万円
◎豊之浦港内道路新設　七百二十万円
◎亀浦師線道路新設　一千万円
◎伊方越立神線道路改良　一千六百五十三万円
◎大浜護岸工事　千八百四十万円

消防費
◎河内防火水槽建設四百六十万円
◎第九分団（豊之浦）消防ポンプ格納庫兼詰所建設　三百三万円

災害復旧費
◎川永田豊之浦線三百六十四万円
◎中之浜坂ノ首線　百三十五万円
◎亀浦中道線　百四十三万円
◎伊方越立神線二カ所　五百四十三万円
◎湊浦伊方越線　四百九十二万円
◎伊方越師浦線　四百九十八万円
◎町道四十二号線　百五十二万円
◎湊浦河内線　三百九十八万円
◎河内上大浜峯線　二百七万円

（スピード時代よさようなら（安全時代よこんにちは

わが家の交通安全はこうして

交通事故をなくすことはみんなのねがいです。

交通事故は屋外にあり、交通安全の原点は家庭にあるといえます「みんなで交通ルールを守ろう」を合言葉に〝わが家の誓い〟として、つぎのことを守りましょう

◎三六五日わが家の交通守全

◈お父さん
・飲酒運転をしない
・ゆっくり走ろう＝速度制限を守り、無理な追越しをしない

◈お母さん
わが家の安全管理者として
・いつも笑顔でお父さんやともを送りだす。
・小さい子ども の安全教育をくり返し行なう。

◆ぼくたち
・道路へ飛びださない。
・道路で遊ばない。
・横断歩道をわたるときは、手をあげ車のとまるのを確かめてわたる。

（伊方、町見警察官駐在所）

春一番の出初式

消防の心意気しめす

めざそう無火災

新春を飾る恒例の昭和五十一年伊方町消防団（吉川治吉団長）出初式は一月八日伊方中学校グランドで挙行されました。

当日は吉川団長以下三百五十人、女子火防隊二十人が出動し、県知事代理をはじめ多数の来賓が見守るなかで、式典は人員報告、人員、服装、機械器具の点検、ポンプ操法が規律正しい態度で行われたあと女子火防隊員による消火訓練、ついで小隊訓練、分列行進が行われ、分列行進は昨年までは消防自動車二台が先頭行進でしたが、ことしの操法積載車七台を踊り入れて、これに加わり威風堂々の行進を行ないました。

・町民の生命、財産を我々の手で守ろう・とその勇姿を披ろうしました。

ついで表彰状及び感謝状の授与、町長訓辞、来賓祝辞、団長訓辞ならびに謝辞がありました。

つづいて出初式のフィナーレの一斉放水が伊方港船揚場で実施されました。

一斉放水は初春の空に二十二本の水柱が力強く伸び、消防の心意気をしめしました。

なお、式典当日消防団活動に功績のあった団員や消防施設の拡充に多額の寄付をされた篤志家のみなさんに表彰状、感謝状が贈られました。

勇姿を披ろう

・町民の生命、財産を我々の手で守ろう・とその勇姿を披ろうしました。
また町では、消防力のより機動力アップのため小型動力ポンプ積載車7台を購入し配備しました。

◎県知事表彰
辻初安（伊方越）
三嶋生竹信（東）

◎県消防協会長表彰
市来鳥男（小中浦）清水正之（川永田）井上忠孝（豊之浦）中田文利（亀浦）堀内政和（向）岩井富繁（島津）

◎八西消防連合会長表彰
河上浩志（大成）大森次郎（河内）松田勝彦（柳浦）吉本正照（小中浦）堀内利和（向）松本彦三郎（九町東）二宮義元（九町西）岩井勝久（二見）川田邦男（加周）塩崎幸雄（大成）井村義邦（町見消防車班）

◎八西消防連合会長無火災表彰
第二分団（中之浜）第三分団（仁田之浜）第六分団（小中浦）第十五分団（田之浦）第十八分団（九町東）

◎町長表彰
大黒顕一（大浜）吉野アキ子（大浜女女火防隊）中田照吉（中之浜）郷谷三郎（仁田之浜）二宮志真子（仁田之浜女子火防隊）上野弘（河内）川口清二郎（豊浦）西岡巌（小中浦）井上依孝（中浦）篠川長義（川永田）林定清（豊之浦）兵頭千尋（伊方越）宮本厚（亀浦）池田義弘（奥）下向清光（向）井上久志（九町東）上田俊光（九町西）山本睦夫（二見）樫原礼年（加周）重岡英治（田之浦）高橋敏男（古屋敷）中田明吉（大成）鳥津哲夫（島津）川崎清隆（町見消防車班）

◎感謝状授与者
四国電力伊方原子力建設所
高野通（二見）
土井定治（河内）

＝敬称略＝

伊方の若人

①職　業　②趣　味
③好みの異性タイプ
④伊方町をどう思いますか
⑤町づくりに対する希望

畑中覚夫さん

川永田　24歳

①農業に従事して、がんばっています。
②スポーツなら一応（楽しむ程度）。ほかにお金とヒマがあればドライブすること。
③健康で明るい女性。
一生男性につくしてくれる人（伊方の女性なら間違いないでしょう）
④誰もが言っていることですが、明るくて住みよい町で、どこへ行っても自慢のできる最高の町だと思う。
⑤原子力発電所建設、国道バイパスの建設などで、町全体が大きく変わって行くようですが、もっと〝自然とふるさとを〟を大切にしてほしいと思います。

佐々木秀美さん

古屋敷　21歳

①町見中学校事務員です。
②和裁を少しばかり。
詩を読むことも自分で書くことも好きです。
③やさしくて信頼のできる人。
清潔な感じの人。
④発展しつつある住みやすい楽晴らしい町だと思います。
⑤いつまでも変らない良さを残してほしいと思います。

もうすぐ一年生

「しつけ」をしっかり

今春、新しく小学校へ入学されるお子さんをおもちのご家庭では入学準備なので、おたのしいことと思います。

小学校入学は、お子さんの人生にとって大きなできごとですからご家庭でも、心の準備、からだの準備に万全を期しましょう。

身のまわりのしつけ

●ひとりで、着物をぬいだり着たりすることができる。まだ用便もひとりでできる。
●履物は、きちんとしまつができる。絵本やおもちゃのあとかたづけができる。
●ひとりで、洗顔、はみがき、手洗いができる。
●ランドセルの中の学用品の出し入れができ、ひとりでせおうことができる。

ことばのしつけ

●名前を呼ばれたときは、はっきり「ハイ」と返事がいえる。
●自分の家の住所、保護者、学校名がいえる。
●自分のことを話すときに、「ぼく」「わたし」をつかうことができる。
●日常のあいさつ（おはよう、さようなら、いってきます、ただいま、いただきます、ごちそうさまなど）がいえる。
●幼児語を使わないよう努めてください。

おかあさん方の心がけ

おかあさん方は、つぎのことに心がけてください。
●眼、鼻、のど、歯などに疾病があったら、いまのうちに治療しましょう。
●手は自分の名前をひらがなで書いたり、読んだりできる程度とし、学用品や履物などの持ち物全部に学年、なまえをはっきり書いてください。
●交通事故防止のため、こどもさんをつれて歩く時は、右側通行横断のしかた、信号の見方ができるように。
●我、下校の安全な道順をきめておく。
●欠席するときは、理由をメモかい電話で連絡してください。
●学校では集団行動が多くなりますので、わがままを通したりすると、みんなの迷惑になりますので気をつけてください。

楽しい期待をもたせましょう

「もうすぐ一年生よ！」という言葉は、よく出したくなる言葉ですが、少し控めにしましょう。

親がこの言葉を口にすると、たいていつ

「だからかしこくしなきゃ」とか「そんなふうだと、学校へ行きたくなくなるよ」とかいうようなひびが、つきまとってくるからです。

このひびは、子どもによりいろいろな緊張感を与えがちになり、期待よりも不安のほうが大きくなってしまいます。

学校は楽しいところだという安心感を持たせる努力をこそ大切です。

お母さん
ガミガミ
イライラ
指導はだめ
学習指導は
伸び伸びと

百四十四人が新入学

学校名	新入学児
伊方小学校	六十九人
水ケ浦小学校	十人
有永茶小学校	四人
豊之浦小学校	
九町小学校	二十一人
二見小学校	二十五人
合計	十五人
	百四十四人

人権コーナー

みなさんの中で、土地や家屋についてのもめごと、家庭内の問題、隣近所とのトラブルなどいろいろな悩みでお困りの人は、法務局か人権擁護委員さんにご相談ください。

木町の人権擁護委員さんは、つぎの方々です。
小川文一郎氏（湊浦）　電話8－0607
山口　勇氏（二見）　電話9－0928

＝お礼＝

八幡浜市千代田町にお住いで西本医院を経営されている西本正勝氏（中浦出身）より三千円。

大阪市東住吉区平野大通三丁二にお住いで上田東洋電機産業を経営されている上田泰司氏（大浜出身）より五千円。

愛知県一宮市大江一丁目十一の三十二にお住いで富士火災海上保険（株）一宮営業所に勤務されている上田謙吉氏（豊之浦出身）より一万円。

それぞれ広報編集の費用にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともにご健康と活躍をお祈り申し上げます。

人

昭和50年12月末現在
世帯数　2,497戸（－4戸）

人口　9,006人（男4,287人（±0人））（＋1人）（女4,719人（＋1人））

えんむすび

昭和50年12月1日
12月31日

お誕生

おめでとう

昭和50年12月1日
12月31日

おくやみ

昭和50年12月1日
12月31日